

〔科目名〕 対人コミュニケーション				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 アカデミック・コモン・ベーシックス	
〔担当者〕 植田 栄子(てるこ)			〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:			〔授業の方法〕 講義、グループ活動、発表	
〔科目の概要〕 人間関係を円滑に構築するための「コミュニケーション入門」クラスである。学生生活・社会生活を充実させる基本要素に良好な対人関係は必須である。当科目では、自己分析および他者理解を進め、人間関係の構築、発展、維持、修復、交渉などに不可欠なコミュニケーション力について、様々なタスクを通して体験的に学ぶ。 コミュニケーション力の養成と意識化のために、講義、DVD 視聴、ワーク、グループ討論、振り返り、まとめ等の演習を通して実践力を養成する。コミュニケーション力の基本となる伝達力等の言語力を高めると同時に、洞察力を深化させる。また、人間学に基づく多様な価値観を学んで自他共にその理解を進め、自分にとって必要な対人コミュニケーション力を学ぶ。さらに、自分の考えを相手に対し、わかりやすく印象的に説明するプレゼンテーション力を向上させる。そのほか、異文化コミュニケーションに対する基本知識も学ぶ。 コミュニケーション力を養うタスクを行いながら、自己分析と他者理解、既成概念の打破、自分の自由な発想や価値観を、自分のことばで表現する学びの楽しさをぜひ実感してもらいたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 コミュニケーション力の向上は、学生生活を充実させ、人間関係を豊かにする基本である。さらに、専門の経営学・経済学を個人や組織の中で生かしていくには、自己分析と他者理解に基づく対人コミュニケーション力、プレゼンテーション力、リーダーシップ力、グループワーク力が重要である。 単なるスキル習得だけに留まらない人間力としての「対人コミュニケーション力」を着実に高めていくことで、将来の面接、就活、ビジネス交渉、社会参加、社会貢献、コミュニティー作りなどにおいて役立つ。							
〔科目の到達目標〕 A: グループ活動やディスカッションをリードし、対人コミュニケーション力を支える「対話力」、「プレゼンテーション力」において秀でた成果をあげ、提出課題の内容が特に優れている。 B: グループ活動やディスカッションに積極的に参加し、対人コミュニケーション力を支える「対話力」、「プレゼンテーション力」において成果を挙げ、提出課題の内容が優れている。 C: グループ活動やディスカッションに参加し、対人コミュニケーション力を支える「対話力」、「プレゼンテーション力」向上に向けて努力しており、提出課題の内容が要件を満たしている。 D: グループ活動やディスカッションに参加し、対人コミュニケーション力を支える「対話力」、「プレゼンテーション力」向上に取り組み、提出課題の内容が最低限満たしている。F: 教室活動・提出課題が不足している。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生がコミュニケーションとは何か、その根本に何が必要とされるか理解が深まるように、わかりやすい説明と気づきへの促しに努めたい。積極的に人と関わり、より多くの人とコミュニケーションできるように工夫したい。							
〔教科書〕 『対人コミュニケーションの人間学: エニアグラムで学ぶ自己分析と他者理解』(丸善) 1回目に持参すること。 =>〔注意〕 古本の場合、授業に必要な提出ページが欠落しているので、必ず新刊を購入のこと。							

〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕 なし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、コメントシート記入、話し合いを行う。積極的に取り組み課題を提出することが求められる。 ・体験型学習が主であり、教室で意欲的にプレゼンテーションなどの成果を上げるとボーナス点加わる。 ・評価は総合的に行う。なお、開講後の運営状況により、スケジュールは前後したり修正したりすることがある。 	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力がアップすると、大学での人間関係、その後の社会生活や未来が好転していきます。苦手意識を持っている人は、まず「良い聞き手」を目指してください。そして、少しずつ、質問したり自分のことを話したり、他者と交流する中で深く知り合う楽しさを味わってください。 今あなたより、確実により積極的に人との関係性を深めていけるようになります。 ・授業に関係ないおしゃべりなどで他の学生にとって迷惑となる場合は、退室を求めます。 	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地日本人会など異文化交渉にかかる実践経験)等を活かし、自己及び他者への理解や人間関係の発展、維持、修復などのコミュニケーション力を修得する授業です。	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ: コミュニケーションとは何か: コミュニケーションの楽しさを体験する</p> <p>内 容: ①初対面のペアワーク(共通点探し)、②マスクコミュニケーションにおける問題点の確認 *DVD 視聴</p>
第2回	<p>テーマ: コミュニケーションの基礎概念: 問題点の意識化</p> <p>内 容: ①コミュニケーションの構成要素の意識化 ②マスクコミュニケーションにおける問題点改善 ③効果的なコミュニケーション力としての表情の意識化 *DVD 視聴</p>
第3回	<p>テーマ: コミュニケーションの構成要素: 無意識から意識化をはかる</p> <p>内 容: ①非言語的コミュニケーションの意識化: 視線・黒目・白目・そのほか ②人間学エニアグラムの紹介 *「エニアグラムのチェックシートの記入」</p>
第4回	<p>テーマ: 自己分析を深め自己の価値観を確認する: 「人間学エニアグラム」の紹介</p> <p>内 容: ①人間学「エニアグラム」に基づくグループ討論(類似のタイプ) ★母音タスク ★無音タスク ★50音図の理解</p>
第5回	<p>テーマ: よりよい人間関係と自己実現のために: 自分の目標や夢を言語化する</p> <p>内 容: ①自己実現に向けての具体的なイメージを言語化する ★「100の夢リスト記入」 ★大谷選手の「マンダラチャート」紹介、記入</p>
第6回	<p>テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために①: 人間学「エニアグラム」の基礎</p> <p>内 容: ①論理的なコミュニケーション力を学ぶ ②質問力を学ぶ ★問答ゲーム ○学期中の課題提示「他者を笑顔にする行動を実践する」</p>
第7回	<p>テーマ: よりよい対人コミュニケーションのために②: 人間学「エニアグラム」の応用</p> <p>内 容: ①人間学「エニアグラム」に基づくグループ討論(多様なタイプ)、②第一印象の検証 ★第一印象タスク</p>

第8回	<p>テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために③： 良い聞き手とは</p> <p>内 容：①良い聞き手となる4つの要素を確認する ②説明力を高める</p> <p>★言語による空間・位置の説明 ★自己紹介の1分間スピーチ</p>
第9回	<p>テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために④： 自己の体内時計の確認</p> <p>内 容：①プレゼンテーション力の養成(2分間スピーチ・3分間スピーチ)</p> <p>★自己紹介3分間スピーチタスクの完成</p>
第10回	<p>テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために⑤： 時間に関する意識化</p> <p>内 容：①時間の使い方を意識する ②「傾聴」を体験し、多様な視点を知る</p> <p>○課題レポート： Zoom で映像と音声の相互評価をグループで実施</p>
第11回	<p>テーマ：よりよい対人コミュニケーションのために⑥： 自己との対話-価値観や幸福感への内省</p> <p>内 容：①自分の人生を俯瞰する新たな視点で想像する ②他者の価値観や幸福感を知る</p> <p>★DVD 視聴</p>
第12回	<p>テーマ： 事実を伝えるコミュニケーション力を磨く①： 伝言力を高める</p> <p>内 容： ①誰に・何を・どう伝えるか具体的に実践 ②伝言力の向上をグループで実践</p> <p>★DVD 視聴</p>
第13回	<p>テーマ： 事実を伝えるコミュニケーション力を磨く②： 伝言力向上の意識化と実践</p> <p>内 容： ①伝言の「伝え方」「聞き方」の向上を図る要素の確認、実践 ②多数決によらない討論</p> <p>★DVD 視聴</p>
第14回	<p>テーマ： プレゼンテーション力の完成： 即興スピーチのチャレンジ</p> <p>内 容： ①与えられたテーマで即興スピーチを行い、相互評価を行う</p> <p>★DVD 視聴</p>
第15回	<p>テーマ： 自己と他者のコミュニケーション力とプレゼンテーション力の分析と振り返り</p> <p>内 容：①Zoom 相互評価の確認 ②TED プレゼンテーション視聴から自分の課題を言語化する</p> <p>○課題：期末レポートの確認</p>
試験	<p>試験ではなく期末レポートを成績評価の対象の一部とする。レポートに他人の記述のコピーなど不正が認められた場合は、不可となる。</p>